

# 探究的に読書に取り組み、自分の考えを深める児童の育成

—問いで本を読みつなぎ、思考の過程を可視化したマイ本棚づくりを通して—

小暮 慶 (千葉市立泉谷小学校)

[研修先 千葉大学教育学部]

## 《研究の概要》

本研究の目的は、国語科の「読むこと」において、文章を読んで理解したことについて考えを形成する力を育成するための学習指導の在り方について明らかにすることである。ノンフィクション作品を中心(図鑑、百科事典、各類の説明的な文章等も含む)に、児童は自身の興味・関心を大切にしながら、探究的に本を読みつなげる学習に取り組んだ。読みつなげた本をマイ本棚に収めていくことで客観的に読書の過程を振り返ったり、本を介して友達と交流したりできる環境を整えた。その後、得た知識や深まった考えをもとに将来の自分に手紙を書いたり、クラスで対話したりする学習活動を設定した。既存の知識がより豊かになり、読書と読解が連動することで、自身の生活と関連させ、根拠を明確にししながら自分の考えを表現する児童の姿が見られた。

## 1 問題の所在

新たな時代に向けての必要な学びの在り方として、学習指導要領の着実な実施が求められる中、中央教育審議会の「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(令和3年4月)では、2020年代を通じて実現すべき令和の日本型学校教育の姿が示された。学習指導要領において国語科では、指導の充実を図るために、内容の構成が他教科と同様「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に整理された。「知識及び技能」では、「情報の扱い方に関する事項」が新設された。急速に情報化が進展する中、必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を整理したりすることで自分の考えを形成する力が求められている。また、「思考力、判断力、表現力等」の全ての領域において、「考えの形成」の指導事項が位置付けられ、重要視されていることが分かる。

PISA2018の読解力における日本の結果において、正答率が低かったのは「ある課題に対して自分ならどう対処するか根拠を示して説明する問題」であった。この結果を受け、令和元年中央教育審議会初等中等教育文科会教育課程部会で、高木(2019)は課題の報告として「読書に対する生徒の興味・関心がノンフィクションや新聞などを含む様々なテキストに向いていないことが、「読解力」得点の低下に関連していることが推測される。」と述べている。

読書については全国学校図書館協議会が毎日新聞と共同で全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について調査を行っている。2022年は5月に調査を行い、「5月1か月間に読んだ本の冊数」の調査報告がなされた。小学生の平均読書冊数は13.2冊、中学生は4.7冊、高校生は1.6冊という結果となり、昨年度より小学校で上昇、中学校、高等学校は下降した。また、不読者(1か月に読んだ本が0冊)においては、小学生が6.4%、中学生が18.6%、高校生が51.1%とどの年齢においても上昇傾向にある。年齢が上がるにつれ、不読率が上昇する傾向は、千葉市においても同様に見られる課題であり、「千葉市子ども読書推進計画(第4次)」では、中学生までの読書習慣の形成を重要視している。本校の児童の読書量は個人差が大きく、読んでいるジャンルも文学作品が中心である。

以上のことから、まず一つ目の課題として「考えの形成」のための授業改善として、多岐にわたるテキストを用いた指導を改善する必要性が明らかになっている。二つ目に、読書が生活の一部となるよう、中学校との接続期である第6学年の児童に、目的をもって探究的に取り組む読書の楽しさをどのように感じさせられるか明らかにする必要があることが分かる。

## 2 研究の目的と方法

### (1) 研究の目的

読んで理解したことを基に、探究的に本を読みつな

げ、マイ本棚で学習を客観的に捉えることが、根柢をもちながら、自分の考えを形成する力の育成に有効であることを明らかにする。

## (2) 研究の方法

### ①研究主題に関する基礎的理論研究

ア 考えの形成

イ ウェルビーイングの実現と探究的な読書

ウ 望ましい読書生活者

エ 主体的に学習に取り組むための単元計画

オ 思考の可視化による個別最適・協働的な学びの推進

### ②検証授業の計画・実施

### ③検証授業の分析及び考察

### ④研究のまとめ

## 3 研究の内容

### (1) 研究主題に関する基礎的理論研究

#### ①考えの形成について

文部科学省は指導改善の方向の基本的な考え方について、「PISA調査のねらいとするところは、現行の指導要領で子どもに身に付けさせたいと考えている資質・能力と相通ずるものである」としている。PISA調査の読解力は「自らの目的を達成し、自らの知識と可能性を発揮させ、社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考し、これに取り組むことである。」と定義づけられている。「考えの形成」と深く関りがある「熟考」をさせるためには、テキストにある内容の理解を発展させ、テキスト外部の知識や自らの経験を活用し、関係付ける力が必要になる。

本研究では、個人差がある既存知識をより豊かにし、考えの形成がしやすくなるよう学習計画を工夫した。先行して自分の興味や関心に即した読書に取り組むことで、熟考できる状況を整えた。国語科の単元の始まりを総合的な学習の時間のキャリア教育と連動させることで、自身の興味や関心を客観的に捉え、初めに読む本を選んだ。本を複数冊読みつなげたあと、2～3冊の本を選択し、比較しながら情報を関連付けて読み返し、将来幸せでいるために必要なことについての考えを、自分に宛てた手紙で表現した。

#### ②ウェルビーイングの実現と探究的な読書

2015年からOECD(経済開発協力機構)は「Future of education and Skill 2030プロジェクト」を進めてきた。2018年までのフェーズ1の成果として2019年に「Learning Compass 2030」が発表された。その中で、児童がウェルビーイング(Well-being:幸福)を実現していくために、自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付ける重要性が示されている。よりよい未来の創造に向けた変革を起こす能力を児童が備えていなくてはならない。

また現在、各教科等の学びを統合した「探究学習」が重要視されている。高等学校では2022年度から実施の学習指導要領に「探究学習」を重点的に置いた学習内容が挙げられている。「探究学習」とは自ら主体的に学ぶことで、「思考力、判断力、表現力等」を養う学習方法のことを指す。小・中学校でも講義型ではない、探究的な学習が今後も重要視されることが予想される。

国語科の教育と探究について、舟橋(2019)は「国語科の読むことの教育が読解中心から読者反応中心へ、もしくは文章に内在する視点からの問い(解釈活動)から文章をめぐる外在的視点からの問い(批評活動)へといった力点の移動として捉えることができる。多様なメディアを介して学習者が生きるために自ら問いを構成する(探究活動)。そうすることでしか育たない学力があるという認識が生まれてきている。」と述べている。

そこで本研究では、クラスで探究する大きな問いを「12年後の自分が幸せに生きるためには何が必要か」と設定した。多くのノンフィクションを中心とした作品を読むことで、興味があることについての知識を蓄え、先人の生き方や出来事について知った。そして、未来の自分を想像しながら、幸せについて考えたことを手紙で表現した。友達と意見交換をし、「自分の考えと友達の考えにはどのような違いがあるだろうか」と考えることで学習が対話的な学びとなり、個の活動が中心となる読書の成果に、広がりや深まりをもたせることになると考えた。

#### ③望ましい読書生活者

安居(2005)は「望ましい読書生活者」の定義を[資料1]のように示している。

- ・読書が生活に位置付けられている人。
- ・文字情報とかかわりあって知識情報を獲得し、それと併行して思考したり、想像したり、新たなものを創り出したり、といった統合行為として身につけている人。
- ・情報の入手、取り扱いの基本的な技能を身につけている人。
- ・情報を、伝達、コミュニケーション、学び合いとつなげて、読書生活を充実させるという生活の喜び・楽しみを知っている人。

#### 【資料1】読書生活者とは

このような読書生活者の育成において児童に不足しているのは、読書を通して知識を得たり、他の活動に連動させたりする楽しさを感じる機会だと考えた。在籍校の児童の読書習慣には個人差があり、本の世界を楽しむ物語の読書が中心となっている。また、本を媒体にした友達との交流もあまりなされていない。

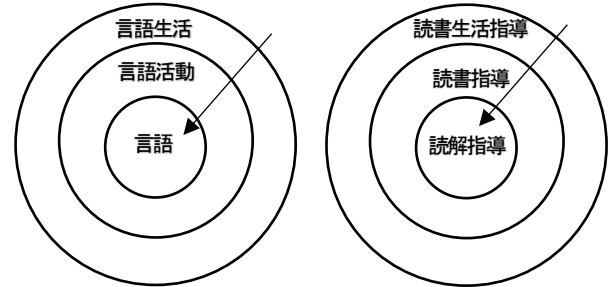
そこで本研究では、上記のような読書生活者が育つよう、単元の初めから自分が選んだ作品に問いをもちながら読みつなげる活動に取り組ませた。自分の将来を考えながら新しい知識を得ることで、興味や関心が育ち、次の本を手取るエネルギーとなると考えた。また、読んだ本を教室に設置したマイ本棚に収めながら読書の傾向や思考の過程を友達と共有し、交流できる環境を整え、読書をより楽しめるようにした。

#### ④主体的に学習に取り組むための単元計画

国語科で育てるべき三つの資質・能力の中の「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成の原動力とされている。目標においては、言葉がもつよさを感じること、読書をする事、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことが示されている。この目標の達成が、児童が主体的に学習に取り組むための第一歩となる。

桑原(1996)は言語を三つの次元で捉え、言語をたたき込めば言語生活者が育つというものではなく、学習は言語生活をスタートとし、[資料2]のように求心的方向に行われるべきものであるとしている。また、読みの指導についても同様に捉え、読解力をつければ読書力がつき、自然に読書をする人が育成されるわけではないと指摘している。このように児童の言語生活、読書生活を出発点に、児童の視点を大切に単元計

画が、主体的な学習へとつながると考えた。桑原は「読みの力は、読むことの量によっても伸びるのである。文章の鑑賞力や批判力は、一つの作品を丹念に読み解くことからだけでなく、さまざまな質やジャンルの作品にたくさん出会うことによっても伸びるのである。」とも述べている。



【資料2】言語生活と読書生活の捉え

本研究では第一単元に興味や関心からたくさんの本を探究的に読む活動を設定する。そして、第二単元では自分で選んだ作品を読み深める活動を設定した。読書単元が読むことの学習から分断されないよう、二つの単元を大きなまとまりとして計画した。

#### ⑤思考の可視化による個別最適・協働的な学びの推進

令和の日本型学校教育の姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」について中央教育審議会が示されている。「個別最適な学び」が進められるように、これまで以上に教師が個に対し、きめ細やかな指導・支援を行う重要性とともに示されているのが、子供が自ら学習の状況を把握し、主体的に学習を調整するよう促すことである。「協働的な学び」においては、個別最適な学びが孤立しないよう、他者と協働しながら学び、異なる考えが組み合わせる機会の重要性が述べられている。

井上(1998)は「自己学習の問題を考える際に一番重要なことは、子ども自身が問題を解決しようとする、学習への興味・意欲をもつことである。」と述べている。読書は自分で本を手取った時点で知りたいことがあり、問いと向かい合いながら読む活動である。そこを可視化し、継続的に取り組むことで、自ら何のために本を読んでいたのかを大切に、把握しやすい状況をつくった。そして、読みつなげた複数冊の本を本棚に並べ、一目でこれまでの思考の過程をつかめるように

した。棚に並んだ本を見るだけでも、友達の読書の傾向や興味があることを知ることができる。自分の読書の傾向やテーマを意識しながら友達の棚を見ることで、自然と比較する姿勢が生まれ、本を媒体に、児童が関わり合うことを期待した。

## (2) 事前調査の実施・分析

千葉市立A小学校 第6学年 61名

### ①全国学力学習状況調査の結果（6月実施）

#### 考えの形成に関わる問いについて（話す・聞く）

ア話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことについて

（第3、4学年指導事項）

○正答…94% ○誤答…6%

イ互いの立場や意図を明確にし、計画的に話し合い、

考えを広げたり、まとめたりすることについて

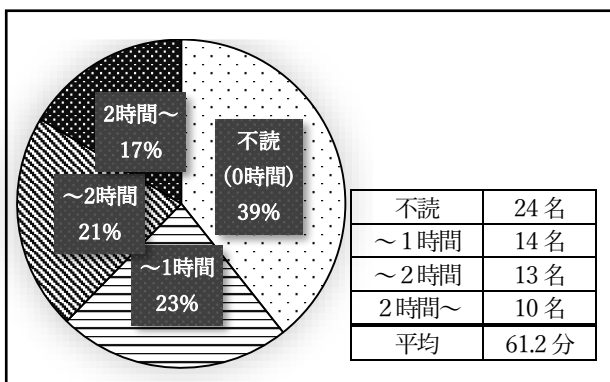
条件：話し合いの一部を引用する

○完答…39% ○誤答…40%

○条件を満たしていない…21%

### ②読書習慣に関わる調査の結果（6月実施）

ア1週間に家で本を読んだ時間（[資料3]）



[資料3] 家での読書時間の割合（1週間）

イ文学以外の読書について

（文学以外に最近読んで心に残った作品はあるか）

○ある…14% ○ない…86%

ウ気になるニュースはありますか（複数回答）

○戦争…16名 ○気候…15名 ○事件…7名

○物価高騰…11名 ○コロナウイルス関係…7名

○他…3名 ○なし…6名

※気になったニュースに関わる本の読書に取り組んだ児童は一人もいなかった。

## 【考察】

全国学力学習状況調査から、自分の考えを伝える際、根拠を示す有効性に気付いていない児童が多いことが分かる。また、読書習慣のアンケートから、家での不読率が高いことが明らかになっている。全く家で本を手にとることがない児童が約40%いる。また、児童はそれぞれ気になるニュースがあり、そのことについてどう考えるか述べることもできる。しかし、テレビやインターネットから受動的に得た情報であり、その後ニュースに関わる本を読むといった習慣はない。

本研究では、新たな知識や情報を得る読書の楽しさと、自分の考えを伝える際、本から得た情報を基に、根拠を示す有効性に気付かせたい。

## (3) 検証授業の計画・実施

①対象 千葉市立A小学校 第6学年（2学級）

②時期 9月～11月

③評価規準（[表1、表2]）

ア第一単元 総合4時間 国語9時間

「12年後の自分を想像しながら、  
事実に基づいて書かれた本を読もう」

### 【総合的な学習における重点目標】

興味がある複数の仕事について調べ、比較することでそれぞれの仕事の魅力について理解する。

[表1] 第一単元 国語科 評価規準(◎重点)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎主体的、継続的に読書に親しみ、自分を支える言葉を見つけたり、新たな考えを発見したりすることができる。(3)オ	問いに即して選書を行い、探究的に読書に取り組むことで、感想や考えをもつことができる。C(オ)	目的を明確にしながらか本を読み、情報と情報を関連付けながら意欲的に読書に取り組もうとしている。

イ第二単元 国語6時間

「本の内容に対する自分の考えを深め、  
12年後の自分に手紙を書こう」

[表2] 第二単元 国語科 評価規準(◎重点)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
継続的に取り組んだ読書が、自分の考えを広げたり、深めたりするのに役立つことを理解することができる。(3)オ	◎複数の本を比較して読みながら理解した内容と既存の知識を結びつけて考えを書いたり、友達に伝えたりすることができる。C(オ)	読書を通して深まった考えを書いたり、友達に伝えたりする活動を通して、これからの自分の生き方について能動的に考えようとしている。

#### ④授業の実際

##### 【第一単元 第一次 1～5時間目／13時間】

次	学習活動
一次 5時間	・12年後の自分が幸せに生きていくために考えるべきことについて友達と意見を出し合う。
	・職業調べサイト「Edu town あしたね」を活用し、自分が得意なことに深く関わりがある職業を見付ける。
	・職業に就いている方のインタビュー記事を読み、自分が興味をもった職業を二つ選ぶ。
	・選んだ職業について、本やインターネットを使って詳しく調べ、その仕事の魅力について考える。
	・調べた内容を項目ごとに比較し、その仕事のやりがいについて考え、友達と交流をする。
	・今後の単元計画を立てる。
	・教師見本をもとに本の探し方を知る。
	・本のジャンルの特徴について知る。
	・スタートとなる本を読む。

##### ○総合的な学習の時間(キャリア教育)との連動


児童は、第2学年の生活科「自分の成長を喜ぼう」、第4学年の総合的な学習の時間「2分の1成人式をひらこう」で自身のことを振り返り、未来のことを想像する学習に取り組んできた。第6学年では興味がある職業について調べ、働くことを考える学習を設定した。第二単元の最後に書いた手紙はキャリアパスポートに保管し、中学校へと引継ぎ、児童のキャリア形成の自己実現に前向きな姿勢を育成することをねらった。

教材は、[資料4]のような、実際に働いている方のインタビュー記事を活用した。その職業に就くために必要な学歴、資格といった知識だけでなく、仕事のやりがいや成功、失敗体験について複数の職業について読むことで、なぜ働くのか、どのような気持ちで働くことが幸せにつながるかといった問いに対し、記事と比較しながら意欲的に考えようとする姿が見られた。これらの学びに支えられ、その後ノンフィクションを中心とした本の読書に積極的に取り組む姿が見られた。

**ほんたうに判断するプレッシャー**

この仕事に就いていちばん大変だったのは、選手の体の状態を判断しなければならぬことでした。ふだんの私はチームのスケジュールに合わせて仕事をしていますが、シーズンオフや時間が空いたときは接骨院に勤務しています。治療法や患者さんの体の状態で迷ったとき、接骨院では先輩や院長に相談することもできますが、クラブにはそうした相談相手がないわけではあります。選手の体の状態について間違った判断を下すことは許されないので、いつもプレッシャーを感じています。

「もう、すっかり体の調子が戻った。試合にも出られるよ」。リハビリ中の選手から、そんなふうにも言われることもあります。試合に出たいという選手の気持ちはとてもよくわかりますが、トレーナーとして安易に判断することはできません。以前、治療中だった選手が「もう治ったから」と復帰した試合で、前と同じ部位をケガしてしまったことがあります。そのときは、「本人が言うのだから信頼できるのだらう」という私の判断がまずかったのだとは、とても後悔しました。いまの私は、選手の体の状態を判断し、ときには選手の「出場したい」という意志に反しても、慎重に判断を下すことが、トレーナーにとってもっとも大切なことだと思っています。



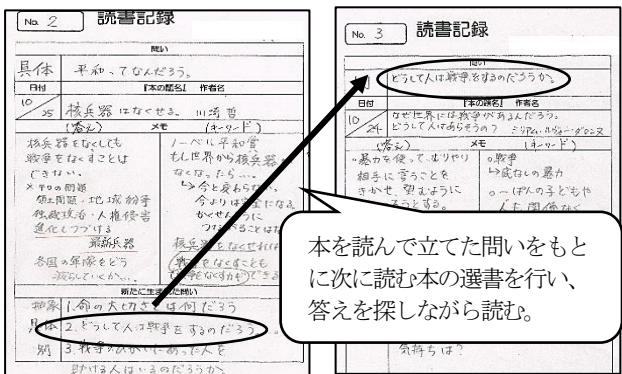
【資料4】総合的な学習の時間に用いたインタビュー記事

##### 【第一単元 第二次 6～11時間目／13時間】

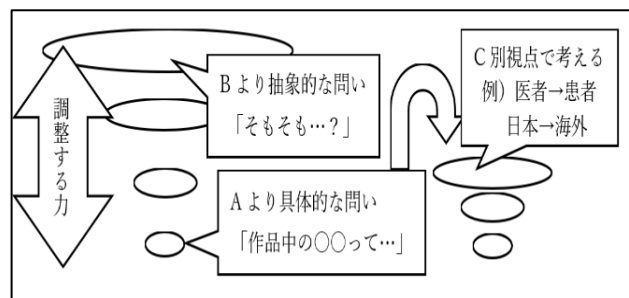
次	学習活動
二次 6時間	・様々な職業で実際に働いている方について書かれた本を読んで、心に残ったキーワードを書き出す。
	・書き出したキーワードから、もっとよく知りたいことを中心に問いを立てる。
	・本を選ぶために題名、目次、はじめに、おわりに、索引をどう活用するか考える。
	・本校図書室、公立図書館、学区の中学校で選書を行い、問いに即して本を読む。
	・各自読書を進める。
	・読書記録に「問いに対する答え」と「心に残ったキーワード」と「問い」を記録していく。

##### ○問いで読みつなげる読書

児童は問いを立て、その答えを探しながら読書に取り組んだ。問いの答えと、大切だと感じた言葉について、読書記録を書いた([資料5])。問いの立て方は、A具体(読んだ作品の中からより詳しく知りたい事柄についての問い) B抽象(本のテーマに関わる本質的な問い) C別視点(本のテーマについて立場を変えて立てた問い)の三つに分けて説明し、問いを調整しながら選書することを指導した([資料6])。児童は本を手取る目的をより明らかにしながら読書に取り組んでいた。



【資料5】問いで読みつなげる読書の記録



【資料6】問いの立て方と調整方法

問いを立てる際、注意点として、問いがYes/Noで答えられないか、問いの答えは今読んでいる本の中で解

決するものではないか確認させた。教師と個別で問いを吟味し、調整を繰り返すことで、自分の興味や関心に即して選書が行えるようになっていった。また、「12年後の自分の幸せ」という大きなテーマを意識させることで、選ぶ本も知識を蓄えることができる図鑑等の本から、ノンフィクション作品や伝記といった人の生き方が綴られていたり、書き手の主張が込められたりする本を手取る児童が増えていった。

### ○思考の過程を可視化したマイ本棚

立てた問いに対して児童は選書を行い、答えが書かれていそうなページを中心に読むため、平均すると2週間で約8冊の本がマイ本棚に並んだ。読んだ本が自分の本棚に並ぶことにも喜びを感じ、それが読書意欲にもつながっていた。マイ本棚の約束を〔資料7〕のように示し、友達のマイ本棚から本を借りて読むことも推奨した。各本棚から読書のテーマを感じることができ、また並んでいる本の順番から友達の思考の過程に触れることができるので、本を介した友達との交流が多く見られた〔資料8〕。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>①本を読んだ順番通り右から並べる。</li> <li>②読書記録をファイルに入れ本と一緒に置く。</li> <li>③友達のマイ本棚の本は休み時間や朝読書の時に読んでもよいが、本の持ち主に必ず断る。また本のおすすめポイントを尋ね、自分の読書に活かす。</li> <li>④友達の本を借りる際、本の代わりに題名を書いた厚紙を挟み、元あった場所に返せるようにする。</li> <li>⑤本を返す時、持ち主に一言感想を伝える。厚紙は自分の本棚に入れる。</li> </ol> |
|---|

〔資料7〕マイ本棚の約束



〔資料8〕マイ本棚(左)と本を借りる様子(右)

### ○読書の価値を感じさせ、今後の読書生活を支える

望ましい読書生活者の育成のために、問いをもちながら探究的に取り組む読書の価値や楽しさを感じさせたいと考えた。小学校の図書室に配架されている本は児童用図書が中心であり、児童が立てた問いに答えられる本があるとは限らない。児童が住む学区のすぐそ

ばには公立図書館があり、恵まれた環境であることにも気付いてほしいという願いから、全員の図書利用カードを作成し、実際に借りる経験をさせた〔資料9〕。図書館ではより専門的な本や雑誌、新聞などもあり、自分の必要な情報が得られやすい場所だということに気付くことができた。また単元の終盤には多くの児童が進学する学区の中学校の図書室を利用させていただいた〔資料9〕。公立図書館で借りた本が難しかったと感じた児童を中心に、年齢に応じた本が選ばれている環境が選書の助けとなることに気付くことができた。「4月、中学校で最初に借りたい本がもう決まりました。」と、継続的な読書が期待できる振り返りを書いた児童も見られた。



〔資料9〕公立図書館(左)と中学校(右)での活動の様子

### 【第一単元 第三次 12、13時間目／13時間】

次	学習活動
三次	・読書記録をもとに、どんなことを考えながら本を手にとってきたか、関係図を書き紹介し合う。
2時間	・友達のマイ本棚の本や本の関係図を読む。 ・目的をもちながら取り組んだ読書活動の価値について考える。

### ○ノンフィクション作品中心の読書への価値

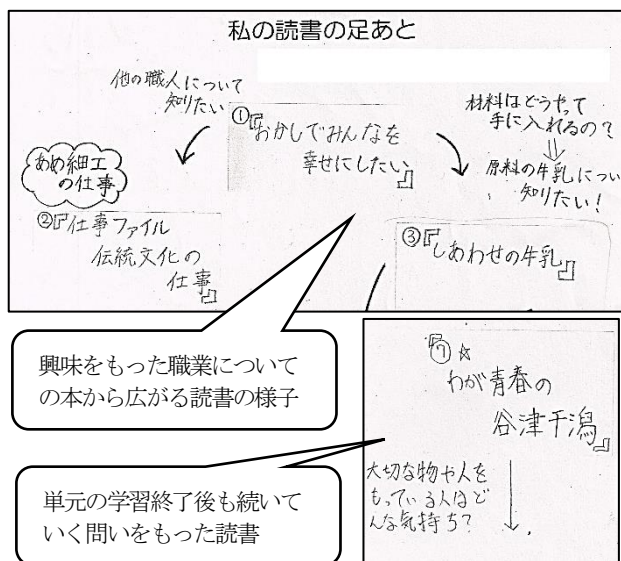
3次ではこれまでの読書を振り返った。平均約8冊の本を問いで読みつなぐ活動を通し、ノンフィクション作品を中心とした読書の価値について気付かせることができた〔資料10〕。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室には普段気に留めなかった棚があった。そこにもおもしろい内容の本があった。</li> <li>・9類の文学の中にも現実にあった話の作品があることを初めて知った。</li> <li>・哲学の本を初めて読んだ。少し難しかったけど自分が生きていくうえで大切な内容だった。</li> </ul> |
|---|

〔資料10〕単元の振り返りの記述

〔資料11〕のように「私の読書の足あと」として図に表すことで、興味の広がりやの違いに気付いたり、似たテーマで読書を進めた児童同士お薦めの本を紹介し

合ったりする姿が見られた。



〔資料11〕 児童が書いた「読書の足あと」

【第二単元 第一次 1時間目／6時間】

次	学習活動
一次 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元で選んだもっとよく読みたい本とその理由について確認する。</li> <li>読書を通して今考えることを表した教師見本を読むことで、どのような準備が必要になるか考える。</li> </ul>

○児童と共に教師が書く活動に取り組む

本の内容に対して自分の考えを深めるために、もっとよく読みたいと思う本を2冊以上児童に選ばせた。手紙のイメージが明確にもてるように、教師が「Aのような問いで読みつなげたかを明らかにしながら考えを書き表す」「B作品の共通点を中心に深まった考えを表す」「C相違点から主張したいことを表す」という3パターンの手紙を書いて示し、児童が自分に合った文体を選択できるようにした。どれも自分の考えの根拠が明確になるように引用文を活用した。

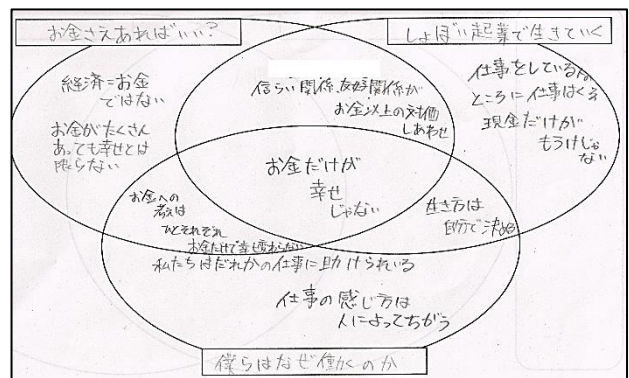
【第二単元 第二次 2～5時間目／6時間】

次	学習活動
二次	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いのちの作文」「Kちゃんが行く」「ありがとうが私を元気にしてくれる」を比べて読み、教師が生きていくうえで大切にしたいことが何なのか予想する。</li> </ul>
4時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に自分に強く影響を与えた作品を比較して読み、共通点や相違点に着目して自分の考えを深めたり、考えの根拠になる場所を探したりする。</li> <li>深まった考えや、新たに考えたことを踏まえ12年後の自分へ手紙を書く。</li> </ul>

○継続的に取り組んだ比較する活動

朝読書の時間に、教師が選んだテキスト(『生き方の

教科書』 到知出版社2022)を読み、内容を比較し、自分の考えを表現する活動に取り組んだ。書き手の伝えたいことが明確に表れ、短時間で読める作品二つを読み比べ、考えを書いた。初めは賛同できる主張に寄り添い、自分の感想を付け加えるような書きぶりが多かったが、〔資料12〕のようなベン図を活用することで、共通点と相違点に着目しながら、「12年後の自分が幸せであるために必要なことは何か」について自分の考えを書き綴る姿が見られた(〔資料13〕)。



〔資料12〕 複数の本の比較 (A児)

こんにちは、小学6年生の〇〇です。もし、今働くことについて悩んでいたら、この授業で読んだ本を思い出してください。  
 まず、『しよばい起業で生きていく』です。筆者のえらいてんちょうさんの「信頼関係、友情関係がお金以上の対価であり、幸せである」という内容に感動したことを覚えていますか… (中略 他2冊の印象に残った文の引用等)  
 生きるうえでお金は大切です。でも、お金という一つのものだけに夢中になりすぎて、他の大切なものを失わないでください。24歳の私の周りに大切だと思えるものがたくさんあることを願っています。

〔資料13〕 未来の自分に宛てた手紙 (A児)

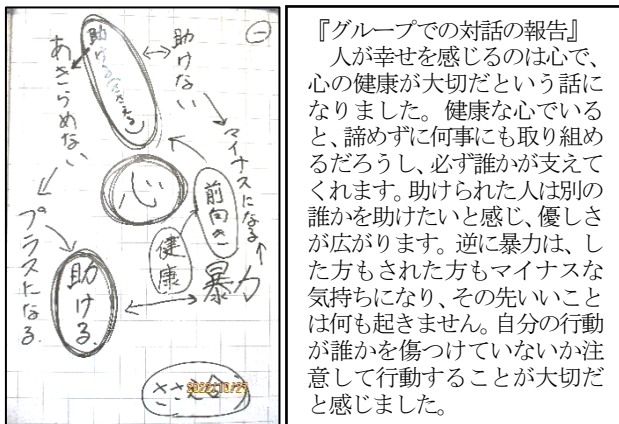
【第二単元 第三次 6時間目／6時間】

次	学習活動
三次 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>書いた手紙をもとに、人間、社会、自然等に対して今考えていることを友達と共有する。</li> <li>書き加えたいことがきたら手紙に書き加える。</li> <li>単元全体を振り返り、次にどんな本を手に取りたいか考える。</li> </ul>

○深まった考えを共有する時間の設定

単元計画を作成する際、手紙は自分だけで読みたいが自分の考えの妥当性については確かめたいという意見が多かった。そこで、「幸せ」について考えていることを友達と伝え合う活動を計画した。友達と自分の考えを比較する(〔資料14〕)ことで新たな気づきがあっ

た児童は、単元終了後も友達に薦められた本を読み、自分の手紙を書き換える姿も見られた。



『グループでの対話の報告』  
人が幸せを感じるのは心で、心の健康が大切だという話になりました。健康な心でいると、諦めずに何事にも取り組めるだろうし、必ず誰かが支えてくれます。助けられた人は別の誰かを助けたいと感じ、優しさが広がります。逆に暴力は、した方もされた方もマイナスな気持ちになり、その先いいことは何も起きません。自分の行動が誰かを傷つけていないか注意して行動することが大切だと感じました。

【資料 14】意見の共有で使用したホワイトボードと報告内容

#### 4 研究のまとめ

##### (1) 成果

###### ① 考えの形成について

本研究では考えの深まりを「複数の本を読み、根拠を示しながら自分の考えを表現できたか」とした。複数の本を読みつなげる時間を確保したことで、新しい知識が日々蓄積され、常に自分の考えを生みながら読書に取り組む姿が見られた。

###### ② 思考の過程を可視化したマイ本棚の活用

マイ本棚は個々の思考の一端が表れ、友達同士の交流がたくさん生まれた。読んだ順番に並べられた本から、相手が今どんなことに興味をもち、考えがどう変化していったか理解しようとする姿も見られた。

###### ③ 問いをもった探究的な読書活動について

一週間の家庭での読書平均時間は 112.8 分増加し、

不読人数（学校での読書時間は含まない）は 11 名減少した。一週間に 1 時間以上読書をした児童は 78.7% と、家庭での読書の時間だけでも、千葉市が目標とする値（52%）を上回った。問いをもちながら探究的に取り組む読書を経験することで、宿題としなくても家庭での読書時間が増加し、不読人数が減ったことから、新しい知識や考え方を獲得する読書の楽しみ方を感じさせることができたと考える。また、将来の「幸せ」について考えることは、日常生活での関心事や疑問を取り上げやすく、自身の興味や関心を中心となる探究的な学習として取り組ませやすかった。

##### (2) 課題

###### ① 考えを表現する際の相手意識の設定

選書にはその児童を取り巻く環境やこれまでの経験が大きく影響を与える。学習成果の表現の仕方や伝える相手の設定を慎重に行う必要がある。

###### ② 問いの質

児童は問いを調整しながら選書を行うことができようになっていった。今後、作品を読み深めるための問いの質について明らかにしていきたい。

###### ③ 生活の一部としての読書

単元終了から一か月後に取った「一週間の読書調査」で、改善見られたものの、本を家で全く読まなかった児童が 13 名いた。読書生活指導は継続的に取り組む必要がある。家庭での読書が生活に位置付けられるようにするには、どのような指導や働きかけが効果的か考えていきたい。

##### 【主な引用／参考文献等】

- ・井上尚美『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—』 明治図書 1998
- ・桑原隆『言語生活者を育てる—言語生活論&ホールランゲージの地平—』 東洋館出版社 1996
- ・経済協力開発機構(OECD) (編著) 『PISA2018 年調査 調査評価の枠組み』 明石書店 2018
- ・経済協力開発機構(OECD) 「OECDラーニング・コンパス 2030」 [https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD\\_LEARNING\\_COMPASS\\_2030\\_Concept\\_note\\_Japanese.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/OECD_LEARNING_COMPASS_2030_Concept_note_Japanese.pdf), (参照 2022-11-30)
- ・公益社団法人全国学校図書館協議会「第 67 回学校読書調査」  
<https://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>, (参照 2022-11-30)
- ・高木まさき「PISA2018「読解力」調査結果を受けて」中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
[https://www.mext.go.jp/content/1423048\\_6.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1423048_6.pdf), (参照 2022-11-30)
- ・浜本純逸 (監修) / 幸田国広 (編) 『探究学習—授業実践史をふまえて—』 溪水社 2020
- ・舟橋秀晃『言語生活の拡張を志向する説明的文章学習指導』 溪水社 2019
- ・千葉市教育委員会「千葉市子ども読書推進計画(第 4 次)」  
<https://www.library.city.chiba.jp/dai4zi-honpen.pdf>, (参照 2022-11-30)
- ・文部科学省「『令和の日本型教育』の構築を目指して」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm), (参照 2022-11-30)
- ・文部科学省「小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 国語編」 東洋館出版社 2017
- ・文部科学省「小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 総合的な学習の時間の時間編」 東洋館出版 2017
- ・安居總子 (編著) 『読書生活者を育てる—中学校の読書指導—』 東洋館出版社 2005